

項盛愷 さん/項盛愷 先生

四川外国語大学日本近現代文学専攻博士課程/四川外国語大学日本近現代文学方向博士生

**編集者より：**国際交流基金では、次世代の日本研究を担う若手研究者が将来国際的・学際的な研究者として活躍できるよう、ネットワークを構築し、協働研究を実践する力を養うプログラムとして、2018 年度から「次世代日本研究者協働研究ワークショップ」を実施しています。2018 年度に同ワークショップに修士課程の学生として参加した項盛愷さんにお話を伺いました。「次世代日本研究者協働研究ワークショップ」の概要については、以下のページからご覧いただけます。

**编者按：**旨在将肩负下一代日本研究事业的青年学者培养成为国际性、跨学科领域的研究者，为其构筑起相互联系的网络，培养其开展合作研究的实践能力，日本国际交流基金会自 2018 年度开始实施“下一代日本研究者工作坊”。此次我们采访了曾于 2018 年度作为学生参加过该工作坊的项盛愷先生。

关于“下一代日研研究者工作坊”的概要，请访问以下网址：

○次世代日本研究者協働研究ワークショップ (JF 公式ウェブサイト) / 下一代日本研究者工作坊 (日本国際交流基金会网站)

<https://www.jpjf.go.jp/j/project/intel/study/network/workshop/index.html>

日 時 : 2022 年 3 月 28 日 時 間 : 2022 年 3 月 28 日  
場 所 : 四川外国語大学 (オンライン) 地 点 : 四川外国語大学 (线上采访)  
使用言語: 日本語 使用语言: 日语  
聞き手 : 野口裕子 采访者 : 野口裕子  
(国際交流基金北京日本文化センター) (北京日本文化センター (日本国際交流基金会))

#### 【略歴】

1995 年浙江省生まれ。山東大学東北アジア学院 (当時) 日本語学科卒業、復旦大学日本語语言文学研究科にて修士号を取得。2021 年より四川外国語大学日本近現代文学専攻博士課程 (在学中)。専門は日本戦後文学。2019 年 2 月、国際交流基金主催の「第 1 回 次世代日本研究者協働研究ワークショップ」に参加。2022 年 10 月より国際交流基金日本研究フェローとして、法政大学人文科学研究科にて研究中。

#### 【简历】

1995 年生于浙江省。读于山东大学东北亚学院日语系，于复旦大学日本语言文学专业获得硕士学位，目前于四川外国语大学攻读博士学位，研究方向为日本近现代文学。2019 年 2 月参加日本国际交流基金会在东京举办的“次时代日本研究者协同研究工作坊”。2022 年 10 月至今通过日本国际交流基金会资助，以访问学者身份于法政大学进行研究。

#### 【本文】

——今日はよろしくお願いします。日本の勉強や文学研究のきっかけを含めて、自己紹介をお願いしますか。

今の若者と同じく、高校生の時から日本のアニメとか漫画とかに興味を惹かれて、日本はどういう国な

のか、そういう問題を抱えながら大学で日本語学科を選びました。そして、学部4年間で日本語を学びながら、だんだん、「ああ、日本はそういう国なのか、もっと深く理解したいな」と思って、大学院に入りたいならどうすればいいのか、(大学の先生に相談すると、)日本文学や言語学を選んで大学院に入ったらいいとおっしゃいました。その時は文学は好きですけども、文学研究はどういうものかは全く知りません。ですが、言語学と比べればやはり文学を研究する方がもっとおもしろいと思いましたので、大学院に入って文学研究の道を選びました。

大学院(修士)の時の指導の先生は日本人の山本幸正先生です。修士の時の論文テーマは開高健の初期作品についてです。修士1年生の時、先生から、「何を研究したいか、誰を研究したいか決めなければなりません」と言われました。僕は中国で出版された日本文学史(の本)を読んで、今の中国においての日本文学研究の現状を調べたところ、開高健という名前がどの文学史(の本)にも出てくるのですが、研究は少ないです。それはなぜだろうか、これが僕の最初の疑問です。この疑問を抱きながら、開高健の文学を読んで、彼の人生を調べて、やはり面白いと思って、開高健の研究を決定しました。

山本先生からいろいろ日本文学の研究方法を教わって、日本文学研究はどういうものかだんだん分かって、興味が深くなって、博士(課程)に入りたいと思うようになり、今までずっと日本文学を勉強してきました。

——「次世代日本研究者協働研究ワークショップ」に参加された時のことをお話しいただけますか。

ある日、(別の)先生から、「君、博士(課程)に行きたいですね?じゃあこのプロジェクトに参加してみたら?」と誘っていただき、僕は初めてこのプロジェクトを知って申請しました。

僕はその時は、まだ文学研究の初心者で、このプロジェクトが一体どういう目的なのかは実際(詳しくは)分かりませんでしたが、参加したら、いろいろ勉強になりました。一番印象に残ったのはやはり、他の分野の研究者(注:参加者の大学院生)との共同研究ですね。その時は20名ぐらいの研究者がいて、僕らは分野別に分けられたのではなくて、違う分野の研究者が一つのグループになって、一つのテーマを研究しました。例えば僕は文学の研究者なんですけれども、僕のグループの中には政治とか社会とか教育とかの研究者もいました。じゃあみんなの研究を生かせるためにはどのようなテーマがいいんだろう?この問題はその時の一番大きな問題ですね。でも、これも一つとても良いきっかけになりました。ほかの分野の研究者と交流しなければなりませんので、初めて彼らの研究方法や考え方を知りました。その時、もし、他の分野の研究方法や知識や経験などを活かすなら、文学研究はどうなるのだろうか、ふと意識しました。文学内部だけではなくて、その外の視点から文学を見るという考え方は、今でも僕の研究にも影響を与えています。

(グループには)中国のほかの学校からの研究者や、インドの研究者、またフィリピンの研究者もいました。やはりみんなが考えている問題は違いますね。インドはインドの歴史があって、インドと日本の関係を考えます。そしてフィリピンと日本は戦争の時はいろんな問題があって、フィリピンの研究者はやはりその時のことを研究しています。一番印象深いのはやはりそのインドの方ですね。インドと日本の古典文学の関係を研究しています。彼の研究は僕に一つの発想、例えば中国と日本の比較文学をしてはどうかという発想を与えました。

——今はどんな研究をしておられますか？「次世代日本研究者協働研究ワークショップ」で形成されたネットワークは今後のご研究に生きてくるとお思いますか？

今は修士課程に続けて、まだ開高健を研究しています。修士時代は開高健の初期作品について研究しましたが、今は開高健の全体、中期から後期、人物像を研究したいです。実は、その時作ったネットワークは今も活用しています。例えば、その時、知り合いになった日本にいる研究者たちに、資料が欲しいと言えば、コピーしてくれますので。いろいろ教えられたり、教えたりする機会が多いです。これは確かにプロジェクトの目的なんですね。確かに、実現しました。

将来は、開高健の研究が終わったら、その同時代の別の作者、例えば大江健三郎とか、そして開高健がかかわっている大衆文化とか、いろいろ研究したいです。博士の学位をとったら、大学で学生を教えたいです。

——ありがとうございました。

ありがとうございました。僕みたいな若い研究者のためにご配慮している国際交流基金の皆様から感謝を申し上げます。

公開：2023年6月21日

複製・編集を禁じます  
禁止复制编辑文稿内容